

住友林業株式会社 2019年3月期 第3四半期決算 アナリスト・機関投資家向けテレフォンカンファレンス 要旨

開催日時：2019年1月31日（木）16:00～16:30

説明者：取締役常務執行役員 川田 辰己

当第3四半期の連結業績は、スライド4ページに記載の通り、売上高が前年同期比プラス5.9%の9,070億円、営業利益が同プラス2.4%の241億円、経常利益が同マイナス4.1%の265億円となりました。米国住宅事業における既存事業が伸張した一方で、国内の戸建注文住宅の販売が減少したことなどにより、経常利益は減益となりました。また、当期純利益については、投資有価証券の売却益等により前年同期比プラス10.4%の156億円となりました。

木材建材事業の売上高は、輸入商品をはじめ全体的に販売が好調に推移し増収となりました。一方、セグメント利益は、ニュージーランドにおける木質ボード製造事業の原材料コストアップ、また競争激化によるパーティクルボードの販売単価下落などの影響を受け、減益となりました。

住宅・建築事業は、上期に発生したZEH補助金対象物件の着工遅れの影響による戸建注文住宅の販売棟数の減少、および労務費・資材費の上昇によるコスト増加、ならびに賃貸住宅における前期の受注不足等を起因とする販売減少により、減収減益となりました。

海外住宅・不動産事業は、米国・豪州での販売状況にバラつきはありますが全体としては増収増益となりました。

その他セグメントは、期初から操業を開始した八戸バイオマス発電所を含む、バイオマス発電事業の業績がセグメント全体を牽引し、増収増益となりました。

続いて6ページの国内住宅・リフォーム事業の受注・販売状況です。戸建注文住宅の受注は、幅広い価格帯で受注が増加し、棟数で前年同期差プラス627棟、金額で12%増加しました。

賃貸住宅の受注については、非居住用施設を併設した物件の受注強化を進めた結果、前期並の水準となりました。

リフォームは、耐震工事や旧家再生など技術力の高さを活かした提案により、受注は前年同期比プラス13%、販売は同プラス2%となりました。

また、海外住宅・不動産セグメントについて、豪州では融資規制や不動産価格の上昇を背景に調整局面となっているマーケット環境や、土地造成の遅れなどの影響により、分譲住宅を中心に販売戸数が前年同期を下回りました。一方米国では、既存各社を中心に販売戸数は増加しました。全体業績としては前期の第2四半期から連結子会社化した Bloomfield 社の業績貢献もあり、米国住宅事業が豪州住宅事業のマイナスをカバーし、増収増益となりました。

8 ページは貸借対照表の要約ですが、総資産は、Crescent 社や土地開発事業を行なう Mark III 社の持分取得に伴う販売用不動産等の棚卸資産や固定資産の増加により、前期末と比べ 859 億円の増加。負債はコマーシャル・ペーパーの発行や子会社の新規連結に伴う有利子負債の増加などにより、前期末から 849 億円の増加。純資産は、10 億円増の 3,466 億円となりました。

10 ページ以降は、2019 年 3 月期の通期予想についてです。

連結業績は、期末に予定している Crescent 社の会計上の連結確定処理に伴う影響などを加味し、昨年 11 月 8 日に発表した前回の予想から下方修正しています。売上高は変更なく 1 兆 3,100 億円、営業利益は 515 億円、経常利益は 550 億円、当期純利益は 300 億円となります。

なお、退職給付会計に係る数理差異については、予想数値には見込んでいませんので、ご留意下さい。

セグメント別では、Crescent 社に係る連結会計上の特殊要因が発生する海外・住宅不動産セグメントのみ変更しています。そのほかのセグメントは前回予想から変更ありません。

Crescent 社については、確定処理に向けて同社が保有する不動産に係る「不動産時価評価差額」の算定を進めている段階です。この処理は、個社の業績には影響しませんが、連結業績上では当該不動産の売却時に当該差額を償却し原価や営業外費用として計上します。今期において複数の物件を売却したことにより、連結上は利益を下押しする要因となります。

国内の事業は、戸建注文住宅の受注棟数と受注金額のみ前回予想から上方修正しています。

これまでの受注施策を継続することで、第 3 四半期までの伸びが期末まで続くと想定しており、棟数は前回予想から 400 棟引き上げ前期比プラス 12%となる 8,500 棟、金額もプラス 12%の 3,239 億円としています。詳細は 12 ページを参照下さい。販売は第 3 四半期実績で前年同期比マイナスとなりましたが、現時点の工事中物件の進捗を考慮した上で、通期予想は前回予想を据え置き前期比プラス 1.9%の 7,700 棟としています。

賃貸住宅の通期予想は据え置いており、引き続き目標の達成に向けて取り組んでいきます。リフォームも通期予想を据え置いていますが、ここまでの受注は概ね想定どおりに推移しており、前年同期プラスとなる見通しです。

最後に 13 ページの海外住宅・不動産セグメントの予想です。各社の個社業績の単純合計である「関係会社計」の予想に変更はありません。「その他及び連結調整等」は、Crescent 社に関する連結確定処理の影響を加味しています。

以上で説明を終わります。